【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成20年4月3日(2008.4.3)

【公開番号】特開2006-347928(P2006-347928A)
【公開日】平成18年12月28日(2006.12.28)
【年通号数】公開・登録公報2006-051
【出願番号】特願2005-174433(P2005-174433)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　8/02　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　8/00　(2006.01)
Ａ６１Ｑ　19/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　7/00　Ｌ
Ａ６１Ｋ　7/48

【手続補正書】
【提出日】平成20年2月18日(2008.2.18)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
１）ルゴシンＢ及び／又はその塩と２）レスベラトロール及び／又はその塩とを含有することを特徴とする、オイル化粧料。
【請求項２】
ルゴシンＢ及び／又はその塩を含有するドッグローズ（Rosa carina L.）の果実油を含有することを特徴とする、請求項１に記載のオイル化粧料。
【請求項３】
ルゴシンＢ及び／又はその塩の含有量が、ルゴシンＢに換算して、１～１００００ｎＭであることを特徴とする、請求項１又は２に記載のオイル化粧料。
【請求項４】
レスベラトロール及び／又はその塩を含有するブドウ（Vitis L.）の種子油を含有することを特徴とする、請求項１～３何れか１項に記載のオイル化粧料。
【請求項５】
レスベラトロール及び／又はその塩の含有量が、レスベラトロールに換算して、３～５０００ｎＭであることを特徴とする、請求項１～４何れか１項に記載のオイル化粧料。
【請求項６】
ヒマワリ油を７０～９５質量％含有するものであることを特徴とする、請求項１～５何れか１項に記載のオイル化粧料。
【請求項７】
植物由来のオイルのみで構成されていることを特徴とする、請求項１～６何れか１項に記載のオイル化粧料。
【請求項８】
洗顔の直後に、水分の経皮的散逸を抑制する目的で使用されることを特徴とする、請求項１～７何れか１項に記載のオイル化粧料。
【請求項９】
シソ科ラバンジュラ属（Lavandula angustifolia）の植物の花蕾の精油を含有すること

を特徴とする、請求項１～８何れか１項に記載のオイル化粧料。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００１】
本発明は、オイル化粧料に関する。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００２】
オイル化粧料は、化粧料の分類ではかなり古くからある剤形であり、聖書に於いても「香油」と言う形態のオイル化粧料が開示されている。オイル化粧料は、フレグランス或いは油性の有効成分を溶かす溶剤としての機能と、皮膚上に水分散逸防止膜を形成するエモリエント機能との２つの機能を併せ持つ。植物性のオイルを使用したオイル化粧料の場合には、植物体に含まれる有効成分もオイル中へ溶出してくるため、オイル化粧料剤形に於いて既に有効成分を含有するような場合も存する。植物油中に存在する、皮膚生理に好適な成分としては、例えば、ブドウ種子油におけるレスベラトロール、ティーオイルにおけるエピガロカテキン、カモミール油におけるアピゲニン、ローズヒップ油におけるルゴシンＢ等が例示できる。これらのオイル類は何れも化粧料で広く使用されている（例えば、特許文献１、特許文献２、特許文献３、特許文献４、特許文献５を参照）。しかしながら、レスベラトロールを含んでいるブドウ種子油と、ルゴシンＢを含有しているローズヒップ油とを組み合わせて、オイル化粧料に含有させる技術は知られていない。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
この様な状況に鑑みて、本発明者らは、新たな角層水分量の向上手段を求めて、鋭意研究努力を重ねた結果、１）ルゴシンＢ及び／又はその塩と２）レスベラトロール及び／又はその塩とを含有するオイル化粧料を、洗顔後直ちに使用することにより、洗顔行為によって角層細胞に補給された水分を散逸することなく保持できることを見出し、発明を完成させるに至った。即ち、本発明は、以下に示すとおりである。
（１）１）ルゴシンＢ及び／又はその塩と２）レスベラトロール及び／又はその塩とを含有することを特徴とする、オイル化粧料。
（２）ルゴシンＢ及び／又はその塩を含有するドッグローズ（Rosa carina L.）の果実油を含有することを特徴とする、（１）に記載のオイル化粧料。
（３）ルゴシンＢ及び／又はその塩の含有量が、ルゴシンＢに換算して、１～１００００ｎＭであることを特徴とする、（１）又は（２）に記載のオイル化粧料。
（４）レスベラトロール及び／又はその塩を含有するブドウ（Vitis L.）の種子油を含有することを特徴とする、（１）～（３）何れかに記載のオイル化粧料。
（５）レスベラトロール及び／又はその塩の含有量が、レスベラトロールに換算して、３～５０００ｎＭであることを特徴とする、（１）～（４）何れかに記載のオイル化粧料。
（６）ヒマワリ油を７０～９５質量％含有するものであることを特徴とする、（１）～（５）何れかに記載のオイル化粧料。
（７）植物由来のオイルのみで構成されていることを特徴とする、（１）～（６）何れか

に記載のオイル化粧料。
（８）洗顔の直後に、水分の経皮的散逸を抑制する目的で使用されることを特徴とする、（１）～（７）何れかに記載のオイル化粧料。
（９）シソ科ラバンジュラ属（Lavandula angustifolia）の植物の花蕾の精油を含有することを特徴とする、（１）～（８）何れかに記載のオイル化粧料。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
（１）本発明のオイル化粧料の必須成分であるルゴシンＢ
本発明のオイル化粧料は、ルゴシンＢを含有することを特徴とする。ルゴシンＢは、ポリフェノールであって、バラ科バラ属の植物の植物体、取り分け、ドッグローズ（Rosa carina L.）の果実である、ローズヒップに０．００１～０．００５質量％含有されており、ローズヒップ中のオイル成分を抽出乃至は圧搾して得られるローズヒップオイル中には０．１～１質量％含有される。この含有量は産地やローズヒップオイルの製造方法によっても異なる。前記ドッグローズはヨーロッパ、アジア、アフリカ、南米、北米に広く自生している植物であり、特にルゴシンＢの含有量が多いのは、南米のペルーの標高１０００ｍ以上の高地で生育したドッグローズから得られるローズヒップであると言われている。ドッグローズ以外のバラ科バラ属の植物の果実にも含有されており、この様な果実から採取したオイル中にも含まれており、これらを含有せしめて、結果、ルゴシンＢを含有させることも出来る。この様なバラ科バラ属の植物を例示すれば、例えば、アルピナ（Rosa alpina）、コウシンバラ（Rosa chinensis）、エンジェルローズ（Rosa chinensis var minima）、フィリペス（Rosa filipes）、ガリカ（Rosa galica）、ギムノカルパ（Rosa gymnocarpa ）、スィートブライアー（Rosa rubiginosa）、ハマナス（R. rugosa）などが例示できる。この様なバラ科バラ属の果実から得られたオイルを含有せしめる形態で、ルゴシンＢを含有させることが本発明のオイル化粧料では好ましい。本発明のオイル化粧料に於いて、ルゴシンＢは、後記レスベラトロールとともに、角層に作用して、角層の水分を維持せしめる効果を奏し、それにより角層バリア機能を向上せしめる効果を発揮する。ルゴシンＢの塩としては、通常知られているアルカリ塩であれば特段の限定はされず、例えば、ナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩、カルシウム、マグネシウム等のアルカリ土類金属塩、アンモニウム塩、トリエタノールアミン塩、トリエチルアミン塩等の有機アミン塩類、リジン塩、アルギニン塩等の塩基性アミノ酸塩等が好ましく例示できる。本発明のオイル化粧料における前記ルゴシンＢ及び／又はその塩の好ましい含有量は、ルゴシンＢに換算して、１～１００００ｎＭであり、より好ましくは５０～１０００ｎＭである。これは少なすぎると前記作用を発揮できない場合が存し、多すぎると、効果が頭打ちになり、徒に処方の自由度を阻害する場合や、経時的に製剤に濁りを生ぜしめる場合が存するためである。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
（２）本発明のオイル化粧料の必須成分であるレスベラトロール
本発明のオイル化粧料は、レスベラトロールを含有することを特徴とする。レスベラトロールは、ブドウ科ブドウ属（Vitis L.）の植物の植物体に含有されているポリフェノールであり、紅葉した赤ブドウ葉や種子に特に多く含有されていると言われている。圧搾などによって、ブドウの種子に含まれる油脂を集めて得られるブドウ種子油（グレープシー

ドオイル）中には０．０１～１質量％のレスベラトロールが含有されていると言われている。ブドウ科ブドウ属の植物はヨーロッパブドウ（Vitis vinifera）とアメリカブドウ（Vitis labraska）に大別できるが、レスベラトロールはどちらのブドウにも含有される。又、白ブドウであっても、赤ブドウであってもレスベラトロールは含有されるが、赤ブドウの方が多いと言われている。特に、葉や実が赤く色づいた後にレスベラトロールの蓄積量は著しく増大すると言われている。ヨーロッパブドウの赤ブドウとしては、例えば、カベルネ・フラン、カベルネ・ソービニヨン、ピノ・ノアール、シラー、ガメイ、テンプラニーニョ、サンジョベーゼなどが例示でき、ヨーロッパブドウの白ブドウとしては、例えば、セミヨン、ソービニヨン・ブラン、ピノ・グリ、ピノ・ブラン、ゲヴュルツトラミナー、リースリング、甲州などが例示でき、アメリカブドウの赤ブドウとしては、例えば、デラウェア、キャンベラ、ベリーＡなどが例示でき、アメリカブドウの白ブドウとしては、ナイアガラ、マスカット等が例示できる。本発明のオイル化粧料に於いては、レスベラトロールをブドウの種子油として含有することが好ましく、該種子油は赤ブドウを基源とするものが好ましい。レスベラトロールの塩としては、通常知られているアルカリ塩であれば特段の限定はされず、例えば、ナトリウム塩、カリウム塩等のアルカリ金属塩、カルシウム、マグネシウム等のアルカリ土類金属塩、アンモニウム塩、トリエタノールアミン塩、トリエチルアミン塩等の有機アミン塩類、リジン塩、アルギニン塩等の塩基性アミノ酸塩等が好ましく例示できる。レスベラトロール及び／又はその塩は、前記のルゴシンＢとともに作用して、角層の水分を維持せしめる効果を奏し、それにより角層バリア機能を向上せしめる効果を発揮する。本発明のオイル化粧料における、前記レスベラトロール及び／又はその塩の好ましい含有量は、レスベラトロールに換算して、３～５０００ｎＭであることが好ましく、より好ましくは、５０～２０００ｎＭである。これは少なすぎると前記作用を発揮できない場合が存し、多すぎると、効果が頭打ちになり、徒に処方の自由度を阻害する場合や、経時的に製剤に濁りを生ぜしめる場合が存するためである。

【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
（３）本発明のオイル化粧料

本発明のオイル化粧料は、前記必須成分を含有し、オイル剤形であることを特徴とする。ここで、オイル剤形とは、１気圧２５℃で流動性を有する、炭化水素、総炭素数１０以上の脂肪酸とアルコールのエステル類、総炭素数３０以上の脂肪酸トリグリセリド類、シリコーン油などを主体とし、親水性界面活性剤や多価アルコール、水などの親水性成分を含有しない剤形の総称を意味する。この様な具体的な成分を例示すれば、例えば、マカデミアナッツ油、アボガド油、トウモロコシ油、オリーブ油、ナタネ油、ゴマ油、ヒマシ油、サフラワー油、綿実油、ホホバ油、ヤシ油、パーム油、液状ラノリン、ヒマワリ油、ティーオイル、小麦胚芽油、米胚芽油、流動パラフィン、スクワラン、プリスタン、イソオクタン酸セチル、ミリスチン酸イソプロピル、イソステアリン酸ヘキシルデシル、アジピン酸ジイソプロピル、セバチン酸ジ－２－エチルヘキシル、乳酸セチル、リンゴ酸ジイソステアリル、ジ－２－エチルヘキサン酸エチレングリコール、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、トリ－２－エチルヘキサン酸トリメチロールプロパン、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、テトラ－２－エチルヘキサン酸ペンタンエリトリット、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、ジフェニルポリシロキサン、オクタメチルシクロテトラシロキサン、デカメチルシクロペンタシロキサン、ドデカメチルシクロヘキサンシロキサン等が例示できる。これらの中では、植物性のオイルであって、多価不飽和脂肪酸の含有量の高いヒマワリ油を主体的に用いる、具体的には、オイル化粧料全量に対して、７０質量％以上、より好ましくは７５質量％以上をヒマワリ油にすることである。

【手続補正８】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１３】
本発明のオイル化粧料はオイル剤形であることを損なわない範囲に於いて、上記の成分以外に、通常化粧料で使用されている任意成分を含有することが出来る。この様な任意成分としては、例えば、硬化ヤシ油、硬化油、モクロウ、硬化ヒマシ油、ミツロウ、キャンデリラロウ、カルナウバロウ、イボタロウ、ラノリン、還元ラノリン、硬質ラノリン、ホホバロウ、スクワラン、プリスタン、オゾケライト、パラフィン、セレシン、ワセリン、マイクロクリスタリンワックス等のワックス類、オレイン酸、イソステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、ウンデシレン酸等の高級脂肪酸類、セチルアルコール、ステアリルアルコール、イソステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、オクチルドデカノール、ミリスチルアルコール、セトステアリルアルコール等の高級アルコール類、ポリエーテル変性ポリシロキサン、ソルビタン脂肪酸エステル類（ソルビタンモノステアレート、セスキオレイン酸ソルビタン等）、グリセリン脂肪酸類（モノステアリン酸グリセリン等）、プロピレングリコール脂肪酸エステル類（モノステアリン酸プロピレングリコール等）の非イオン性界面活性剤の内、親油性のもの（ＨＬＢが６以下）、ラベンダー油、カモミール油、ベルガモット油、ハッカ油、ローズマリー油、レモン油、フェンネル油等の精油成分などが例示できる。
【手続補正９】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
本発明のオイル化粧料は、植物に含有される親油性成分の作用をより高く発現させるための製剤であるため、本発明のオイル化粧料を構成する成分は全て植物を基源とする成分とすることが好ましい。特に植物のオイルのみで構成されていることが好ましい。かかる本発明のオイル化粧料は、これらの必須成分、任意成分を常法に従って処理することにより製造することが出来る。
【手続補正１０】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１６】
本発明のオイル化粧料は、洗顔後直ちに皮膚に使用する形態で用いられることが好ましい。前記構成の本発明のオイル化粧料を、この様な使用態様で使用することにより、洗顔後に一時的に高まった角層内の水分量を長時間維持でき、これにより皮膚バリア機能を高め、エモリエント効果を奏することが出来る。本発明のオイル化粧料を塗布後は、余分なオイル化粧料を拭き取り化粧水などで拭き取り、ついで、通常の化粧水、乳液などの整肌化粧料の使用へ移ることも出来る。
【手続補正１１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１８】

下記処方に従って、本発明のオイル化粧料を製造した。即ち、処方成分を攪拌可溶化し、オイル化粧料１を得た。同時に、同様の操作で、オイル化粧料１のブドウ種子油（イタリア産赤葡萄の種子を圧搾して得たオイル；レスベラトロールを０．０３質量％含有）をローズヒップ油（ペルー産のドッグローズの果実を圧搾して得たオイル；ルゴシンＢを０．５質量％含有）に置換した比較例１のオイル化粧料、ローズヒップ油をブドウ種子油に置換した比較例２のオイル化粧料、及び、ブドウ種子油とローズヒップ油とをヒマワリ油に置換した比較例３のオイル化粧料も作成した。

【手続補正１２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２０】
＜試験例１＞

パネラー１名を用い、日を変えて、洗顔後、本発明のオイル化粧料を塗布、比較例１のオイル化粧料を塗布、比較例２のオイル化粧料を塗布、比較例３のオイル化粧料を塗布して処理し、洗顔前、処理１０分後及び処理２時間後に「スキコン－ＩＩ」（イービーコーポレーション製）を用いて皮膚水分量をコンダクタンスとして測定した。参考値として、通常の化粧水、乳液、クリームで整肌処理を行った場合も参考例として検討した。結果を表１に示す。これより、本発明のオイル化粧料は優れた皮膚内水分維持機能を有することが判る。

【手続補正１３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２５】

実施例１と同様の手順で、次に示す処方に従って、本発明のオイル化粧料２を製造した。このものを試験例１と同様に評価したところ、洗顔前のコンダクタンスは５２．３であり、処置後１０分では、５４．１であり、処置後２時間では、５３．４であった。

【手続補正１４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】

実施例１と同様の手順で、次に示す処方に従って、本発明のオイル化粧料３を製造した。このものを試験例１と同様に評価したところ、洗顔前のコンダクタンスは５０．１であり、処置後１０分では、５５．２であり、処置後２時間では、５４．３であった。

【手続補正１５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２９】

実施例１と同様の手順で、次に示す処方に従って、本発明のオイル化粧料４を製造した。このものを試験例１と同様に評価したところ、洗顔前のコンダクタンスは５２．４であり、処置後１０分では、５７．８であり、処置後２時間では、５４．９であった。

【手続補正１６】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００３１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３１】
本発明は、皮膚保湿に好適なオイル化粧料に応用できる。